

甲状腺外科草子 16

置かれた場所：上杉鷹山

杉野 圭三

2001年春、かねてから熱望していた米沢行き
の機会を得た。朝一番の仙山線列車に乗り、
その日のスケジュールを練る。時の流れが止
まったかのような錯覚が楽しい。

米沢は日本が世界に誇りうる不世出の名君、
上杉鷹山（1751-1822）の治めた地である。

ケネディ大統領が「尊敬する日本人は上杉
鷹山である」と言った時、鷹山の名前を知る
日本人ジャーナリストが皆無に近かったのは
有名な逸話である。

鷹山は秋月藩から養子として米沢藩に迎え
られ、第九代藩主となった。当時、藩には 20
万両以上の借金があった。上杉謙信以来の名
門も関ヶ原の戦いで幕府から 120 万石から 30
万石、更に 15 万石へと領地を減らされていた。
しかも藩士の人員削減をしなかったため財政
は「火の車」であった。いかに、養子の口と
は言え、さぞかし頭を抱えたのに違いない。



上杉神社

鷹山の銅像

鷹山の行った藩政改革は『改革の火種』、『敬
師史跡』、『なせばなる』、など数多く逸話や史
実に彩られている。



伝国の辞

『伝国の辞』は天明 5 年に鷹山が藩主の座を
養子治広に譲る時に伝授したものである。

伝国の辞（天明 5 年、1785 年）

一、国家は先祖より子孫へ伝候国家にして、我
私すべき物にはこれ無く候

一、人民は国家に属したる人民にして、我私
すべき物にはこれ無く候

一、国家人民の為に立たる君にて、君の為に
立たる国家人民にはこれ無く候

リンカーン大統領の名演説『人民の、人民
による、人民のための政治』（1863）の精神
と同じであり、この時代の藩主の考えとして
は稀有のものである。しかも、特筆すべきこ
とは、『伝国の辞』がリンカーン演説の実に
78 年も前になされたことである。

『伝国の辞』や神社に奉納された誓詞に見ら
れる鷹山の書体は格調高く見事で、人格を表
し、悪筆の小生は身の縮む思いであった。



「為せば成る」、参考文献など

鷹山は極めて厳しい状況で藩主に迎えられ
たが、「置かれた場所」に不満も言わず、藩士
や人民をまとめ、抵抗勢力を排除し、改革を
成就したのは傑出した政治力である。

言葉だけで「改革」を唱える政治家の多い
中、米沢で彼方を指差す鷹山公は時代を超え、
冷静で悟りを開いたかの様な眼差しであった。

（広大第二外科同門会誌 DOMON 100、「米沢入国記」、2001
年を改訂）

参考文献

内村鑑三：『代表的日本人』（岩波文庫、1894）

童門冬二：上杉鷹山の経営学、PHP 文庫、1990.

小関悠一郎：上杉鷹山、富国安民の政治、岩波新書、2021

山田武雄：米沢藩行革の恩人、上杉鷹山公、川島印刷、1985

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2022 年 1 月 25 日